

[1] 新会長挨拶

川崎 雅史

ただいまご紹介に預かりました昭和60年交通土木工学科卒業、昭和62年交通土木工学専攻修了の川崎でございます。名誉ある京都大学土木会の会長を拝命することになり、身に余る光栄と思っております。皆様方のご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願いいたします。



京都大学の土木会は皆様御承知のように、京大が創立した明治30年の同時期に、京都帝国大学工科大学の土木会として設立し、今まで110年以上の歴史を有し、会員数も1万人を超えるという大きな同窓会です。以前、大西先生が工学部広報に少し記事を書かれていたのですが、昭和37年の土木会の規約改正で、学生会員の会への積極的な参加と、学生中心の土木会の事業を行っておられました。

その頃は、新入生歓迎行事の比叡山登山、学生映画会などもオープンでやっておられたようで、交歓学生懇話会とか運動会みたいなものもあったということです。予餞会も始まり、本当にいろんな行事がこの当時は爆発的に広がりまして、その後、学生運動の時代があり、何年かたってから学生会員を無料にして卒業生のための同窓会としての性格を強めたという歴史があると聞いております。

そこから、平成・令和の時代になり、卒業生の皆様方と学生と教員も含めて、交流が一層深まることが重要な時代になっています。若い学生さんたちはSNSを自分の身体の一部のように駆使して、いろんな情報を得る中で多様な動きをしています。その中で同窓会への帰属意識が学生さんたちの間で希薄になったり、それから就職の面でも先程もお話がありましたように、土木界から少し分散していくような形にも繋がっているかと思えます。

私は昨年から就職担当もやっております。働き手の人材不足からの低成長時代にあって、インフレ率達成2%になっておりますけれども、ポストコロナの時代の中で雇用の変化が起こり、働き方改革もあって、プライベート重視のZ世代と言われる今の若い人たちの仕事に関する考え方、プライベートと仕事の切り分け方もはっきりしてきています。

いずれにしても生き方の中で楽しさというものを享受していることが重要です。これはある意味文化的な生活を送れる時代になってきている証しですが、経済的にはなかなか厳しい時代でもあります。

ここにきて我々教員も卒業生の皆様方の力を借りて、楽しい土木界とは何かということをお学生さんに臨場感を持って伝えていくという使命があります。私がやらなければいけないのは、そのような学生たちと卒業生の皆様とが交流して、プライベートも仕事も楽しい話をする場所をつくることと思っております。

本年度、先ほど役員からお話もありましたが、幹事の中に特命幹事を設けており、今年は渡瀬様をお願いしております。しっかり相談しながら、セミナーや座談会、見学会などのイベント企画を進め、より魅力的な楽しい場所づくりができればと思っております。それが私の目的と思っております。

京土会の皆様方には、一層のご支援を賜りますようどうぞよろしくお願いいたします。皆様の今後の益々のご健勝と京土会の発展を祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。